

2010年6月17日

全国大学国語教育学会

2010年度 学会通信 第1号

全国大学国語教育学会事務局

理事長 吉田裕久

入梅の候、学会員の皆様にはご健勝のことと存じます。

先日開催されました第118回東京大会は、参加者が500名を超える盛会となりました。大熊徹大会実行委員長をはじめとする大会事務局の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

今年度も、2回の大会開催および学会誌発行を着実にしながら、公開講座の実施、テキストおよび課題研究成果の出版、学会賞の創設など、学会活動の充実に努めて参ります。

皆様の研究活動のご発展をお祈りいたします。

◆第118回東京大会 2010年度第1回総会議事録

全国大学国語教育学会事務局

中渕正堯常任理事の進行で、慣例により前回大会開催校三浦和尚氏（愛媛大学）を議長として選出し、総会を開催した（東京学芸大学芸術館）。総会に先立ち、吉田裕久理事長（広島大学）が挨拶を述べた。また、東京大会開催状況について、東京大会実行委員長大熊徹氏（東京学芸大学）から、500名を超える参加者が見込まれることが報告された。

I 議事

1. 2009年度事業報告

2. 2009年度会計報告・監査報告

山元隆春学会事務局長（広島大学）が、資料に基づき、事業報告と会計報告とを併せて行った。監査報告については、監査結果資料を読み上げるとともに提示した。

→承認された。

3. 2010年度事業計画

4. 2010年度予算

山元事務局長が、資料に基づき、事業計画と予算案の説明を併せて行った。

→承認された。

5. 今後の学会開催について

吉田理事長から、まず、今秋10月30日（土）、31日（日）開催の鳴門大会について紹介が行われ、村井万里子大会実行委員長（鳴門教育大学）が挨拶を行った。続いて、

以下の大会開催について、提案がなされた。また、2014 年以降の大会開催について、協力の依頼があった。

2011 年 120 回大会（京都教育大学）5 月 28 日（土）、29 日（日）

121 回大会（高知大学）

2012 年 122 回大会（筑波大学） 123 回大会（富山大学）

2013 年 124 回大会（弘前大学） 125 回大会（広島大学）

→承認された。

6 『国語科教育』第 68 集編集状況等について

藤森裕治編集委員長（信州大学）より、下記の事項について口頭で説明がなされた。

- ・審査結果：投稿総数 27 本 修正採択論文 3 本 修正再審査論文 4 本 研究論文を研究資料とした修正採択論文 2 本
- ・書評対象図書：鶴田清司『〈解釈〉と〈分析〉の統合をめざす文学教育』学文社、2010 年 執筆者：望月善次（盛岡大学）
- ・次号編集長：村井万里子（鳴門教育大学） 副編集長：高木まさき（横浜国立大学）

→承認された。

7 その他

特になし。

II 報告

1. 研究部門

小川雅子氏（山形大学）から、下記の事項について口頭で報告がなされた。

- ・課題研究「国語科教師の実践的力量をどう育むか」の出版計画について
- ・次回鳴門大会での課題研究「「メディア」から国語教育の研究と実践を展望する」の実施計画について

コーディネーター：高木まさき（横浜国立大学）

登壇者：中村敦雄（群馬大学）今井康雄（東京大学）水越伸（東京大学）

- ・次回鳴門大会での公開講座「文学教材研究の方法（2）—現代文を中心とした教材研究の方法—」の実施について

2. 広報部門

松山雅子氏（大阪教育大学）から、下記の事項について口頭で報告がなされた。

- ・学会ホームページへの理事長挨拶英訳の掲載について
- ・『国語科教育』掲載論文の英文タイトルのホームページへの掲載を、6 月中に予定している。論文英訳のための参考訳としての活用を旨とし、和文タイトルを併記するとともに、指摘があれば適宜修正を行う。

3. テキスト編集委員会

世羅博昭氏（四国大学）より、下記の事項について口頭で報告がなされた。

- ・『新たな時代を拓く小学校国語科教育研究』（学芸図書、2009 年）の販売状況
- ・『新たな時代を拓く中学校・高等学校国語科教育研究』の刊行予定（今年度）

4. 学会賞について

有澤俊太郎氏（上越教育大学）より、学会賞創設の計画状況に関して口頭で報告が行われた。

- ・名称：全国大学国語教育学会優秀論文賞
- ・選考方法：検討中
- ・開始年度：2011年度からの開始を目標とする。

5. 学会発表および学会誌への投稿資格について

吉田理事長から、入会後の会員資格と、学会発表申し込みおよび学会誌の投稿資格との関係について確認がなされた後、会員として学会活動を行う際の会員資格の有無について今一度留意するよう依頼があった。

6. 学会名簿の作成について

7. 今秋の選挙について

吉田理事長から、学会名簿の作成と理事の選挙について、スケジュールの説明と、協力の依頼が行われた。

8. その他

（1）学会予算における予備費について

吉田理事長から、学会予算の予備費に関して、次のような説明が行われた。

- ・不測の事態に備えて1ヶ年度分の経費を留保する。
- ・出版補助、大会参加費補助、学会賞創設等会員への還元に努めている。

（2）『国語科教育学研究の成果と展望』第二版の編集・刊行計画について

吉田理事長から、常任理事会において編集代表を選出したことが報告された。

→以上の報告について、特に質疑はなかった。

以上

◆第119回鳴門大会のご案内（第1次）

鳴門大会実行委員長・村井万里子（鳴門教育大学）

■第119回大会は、2010年10月30日（土）、31日（日）に鳴門教育大学キャンパス（鳴門市鳴門町高島字中島748）にて行われます（編集委員会、常任理事会は、前日の10月29日（金）ホテル・アドイン鳴門にて行います）。

■学会参加については、事前申し込みとなります。

（JTB徳島支店より、参加申込書等が学会員に郵送されます。）

■大会2日間の概要（予定）

会場：鳴門教育大学 講義棟（B棟）・講堂（2日間とも）

<第1日目 10月30日（土）>

午 前：自由研究発表

昼 ：理事会

午 後：総会

人形浄瑠璃公演

パネルディスカッション：テーマ「ことばを育てる絵本と国語教育」

懇親会（大学会館食堂）

<第2日目 10月31日（日）>

午 前：課題研究発表：

テーマ「「メディア」から国語教育の研究と実践を展望する」

コーディネーター：高木まさき（横浜国立大学）

登壇者：中村敦雄（群馬大学）今井康雄（東京大学）水越伸（東京大学）

午 後：自由研究発表

公開講座：テーマ「文学教材研究の方法（2）—現代文を中心とした教材研究の方法—」（自由研究発表との同時開催）

◆第119回 鳴門大会・自由研究発表者の募集について

鳴門大会実行委員長・村井万里子（鳴門教育大学）

1. 募集区分

自由研究発表

2. 発表等の申し込み手順

（1）往復はがき（往信面）に次の事項をご記入の上、申し込んでください。

①発表区分 自由研究発表

②発表題目（申し込み後の変更は不可）

③氏名（ふりがなを必ずつける）

④所属（職名，電話番号，メールアドレス）

⑤住所，電話番号，緊急時連絡先（携帯電話）

⑥プロジェクト使用（プロジェクト使用者は，必ず記入して申し出てください。

パソコンは発表者持ち込みとなります。プロジェクトは大学備えつけを使用できますが，パソコンとの相性がありますので発表者が持ち込むことも可とします。

なお，準備時間も発表時間に含みます。）

* 返信はがき（おもて）には，自分宛の郵便番号，住所，氏名を必ず記入して下さい。

（2）申し込み先（鳴門大会事務局）

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748

鳴門教育大学 言語系コース（国語） 幾田伸司 研究室宛

（3）発表申し込み締め切り

7月30日（金）必着

＊締め切り後は受け付けません。また、発表日のご指定もご遠慮ください。

（４）発表要旨集の原稿締め切り

8月27日（金）必着

＊締め切り後のものについては要旨集が白紙となります。

（５）大会全般についての問い合わせ先（できるだけメールにてお問い合わせください。）

余郷 裕次（研究室）

T E L & F A X : 088(687)6336

メール：gsxrl100@naruto-u.ac.jp

幾田 伸司（研究室）

T E L & F A X : 088(687)6335

メール：s.ikuta@naruto-u.ac.jp

◆公開講座開催のご案内

研究部門：小川雅子（山形大学）

■第119回鳴門大会にあわせて、下記の要領で第5回公開講座（テーマ：文学教材研究の方法）を開催いたします。会員、非会員を問わず参加が可能です。奮ってご参加ください。

■第5回公開講座（予定）

- 1 テーマ 文学教材研究の方法（２）—現代文を中心とした教材研究の方法—
- 2 登壇者
 - ・指定討論者 飯田和明（筑波大学附属中学校） 丹藤博文（愛知教育大学）
土山和久（大阪教育大学）
 - ・コーディネーター 上谷順三郎（鹿児島大学）
- 3 日 時 2010年10月31日（日）13時30分～16時（鳴門大会、2日目午後）
- 4 会 場 鳴門教育大学 講義棟（B棟）
- 5 参加対象 学会員および参加希望者 ※公開講座のため参加費無料

◆『国語科教育』第69集 投稿募集について

第69集編集委員長 村井万里子（鳴門教育大学）

下記の要領により、『国語科教育』第69集の原稿を募集いたします。

なお、募集要領は学会ホームページにも記載されております。

1. 投稿論文は、2010年8月1日（日）から8月31日（火）（消印有効）までの期間に受け付けます。
2. 原稿の送付先は下記の通りです。

〒739-8524 東広島市鏡山一丁目1番1号
広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座内
全国大学国語教育学会事務局
3. 封書にはかならず「投稿原稿在中」と朱書きし書留で郵送してください。
4. 原稿は、4部（コピー可）送付してください。
 - （1）そのうちの1部には、題名のあとに氏名を記し、論文の最末尾に（ ）をつけて所属を、行をかえて原稿発送年月日を、それぞれ1行ずつ取って記してください。

また、その論文の前に、氏名・所属・連絡先を明記した用紙を添付してください。
 - （2）あとの3部については、氏名・所属等、書き手を特定できる情報は書かないでください。
5. 原稿は、原則としてワープロまたはパソコンで打ち出し、フロッピーを添えて送ってください。その際、フロッピーに機種名・ソフト名を書き添えてください。（例：「一太郎2007」）
6. 原稿は未発表のものに限ります。ただし、口頭発表やプリント類の場合は、この限りではありません。
7. 募集の枠を「研究論文」「実践論文」「資料」の三つとしますので、どの枠に応募したものであるかがわかるように、そのことを題名の前に明記しておいてください。

ただし、投稿論文の採択の枠付けについては、編集委員会におまかせください。
8. 図表などの類は、本文の中に含めて計算し、本文内に該当箇所を明示してください。

なお、縮小する場合は、読者が判読できないなどということがないように、8割以上の縮小率で収めてください。また、「注」は本文と同じ書式でそろえてください。

付記

- （1）紀要のテンプレートが学会ホームページにあります。次のURLのリンク「テンプレート集」から参照してください。 <http://www.soc.nii.ac.jp/nace/>
- （2）引用文献、参考文献は、原稿末尾に「注」で明記してください。
- （3）原稿の返却はいたしません。控えをとっておいてください。
- （4）原稿の郵送は、書留をお願いします。
- （5）連続掲載は、原則として2回までとなっています。

<参考> 『国語科教育』投稿要領

- 1 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表、プリントの場合はこの限りでない。
- 2 論文原稿は、縦書きまたは横書きで原則としてワープロを使用する。
- 3 編集委員会において特に枚数を指定するもの以外の論文原稿は、原則として400字

誌原稿用紙ほぼ 40 枚（8 ページ分）以内とし、1 ページあたりの字数・行数を次のようにする。

(1) 横書きの場合

23 字×44 行×2 段（1 ページ 2,024 字、ただし最初の 1 ページは、題目・氏名のスペースとして 7 行 2 段をとる。）

(2) 縦書きの場合

33 字×31 行×2 段（1 ページ 2,046 字、ただし最初の 1 ページは、題目・氏名のスペースとして 7 行 2 段をとる。）

* 引用および注の文字ポイントは本文と同じとする。ただし、図表についてはこの限りではない。

4 論文原稿は 4 部（複写でよい）送付するものとする。原稿は原則として返却しない。

5 原稿は、氏名、所属、連絡先を付記し、全国大学国語教育学会事務局に送付するものとする。

6 投稿論文は、上期においては 8 月 1 日から 8 月 31 日までの期間、下期においては 3 月 1 日から 3 月 31 日までの期間に受け付けるものとする。

◆学会発表および学会誌投稿の資格について

全国大学国語教育学会学会事務局

■ 先日の東京大会総会でも報告事項として話題となりましたが、年 2 回の学会および学会誌刊行は学会活動として行われていますので、自由研究発表へのお申し込み、および、学会誌への投稿は会員資格を必要とします。新しく入会を希望される方は、入会までに一定の期間を要するため（常任理事会での承認・当該年度の会費納入）、発表申し込みおよび投稿の時期にお気をつけください。また、現会員の皆様におかれましては、会費滞納による会員資格停止の規定がございます点、どうぞご留意ください。

◆学会事務局からのお知らせ

全国大学国語教育学会学会事務局

■ 2010 年度のおおよその学会活動予定

○ 5 月 29 日（土）・30 日（日） 第 118 回東京大会（東京学芸大学）

○ 6 月末 2010 年度「学会通信」第 1 号発行 会費納入

○ 8 月初旬 会員名簿作成のための登録確認

○ 8 月 編集委員一部改選

○ 8 月末 『国語科教育』第 69 集論文投稿締め切り

○ 9 月末 2010 年度「学会通信」第 2 号発行

- 9 月末 『国語科教育』第 6 8 集発行
- 1 0 月 3 0 日（土）・3 1 日（日） 第 1 1 9 回鳴門大会（鳴門教育大学）
（1 0 月 2 9 日編集委員会・常任理事会 1 0 月 3 0 日理事会・総会）
- 1 1 月～2 月 理事選挙 理事長選挙 常任理事選挙（下記手順参照）
- 1 月末 2 0 1 0 年度「学会通信」第 3 号発行
- 3 月末 『国語科教育』第 7 0 集論文投稿締め切り
- 3 月末 『国語科教育』第 6 9 集発行

■ 2 0 1 0 年度には理事選挙が行われます。選挙の手順についてお知らせいたします。

名簿作成

- 8 月初旬 名簿登録情報確認文書の発送（→全会員へ）
- 8 月末 返送締め切り
- 9 月～10 月 名簿作成（編集・印刷）

第 1 ステップ＜全国理事・地区理事の選出＞

- 11 月半ば 「理事の選挙について」「会員名簿」発送（→全会員へ）
- 12 月初旬 投票締切・新理事選出
- 12 月半ば 選出者あてのお知らせ発送

第 2 ステップ＜理事長の選出＞

- 1 月初旬 「理事長の選挙について」・「新理事名簿」発送（→新理事へ）
- 1 月半ば 投票締切・新理事長選出

第 3 ステップ＜常任理事の選出＞

- 1 月下旬 「常任理事の選出について」・「新理事名簿」の発送（→新理事へ）
- 2 月初旬 締切
- 2 月半ば 「常任理事の依頼について」の発送（→新常任理事）
- 3 月半ば 現常任理事会における新学会役員の承認

■ 学会ホームページのパスワード

学会ホームページで「総会議事録」を閲覧する際、パスワードの入力を求められます。「zenkokudaigaku」と入力してください（以前から変わっていません）。

◆今年度の会費納入のお願い

全国大学国語教育学会学会事務局

■ 今年度の会費納入に関して、「2 0 1 0 年度学会費納入のお願い」と振り替え用紙を同封しています。案内に記された「請求金額」を郵便振替にて下記口座宛お振り込みください。

■ 今年度は、上にご案内しましたように、次期学会役員選挙が予定されていて、早期に会員資格を確定する必要があるがございます。また、事務局移転にともない、学会会計の中間報告を鳴門大会で行う予定です。これらのことから、会費の納入期限を7月末日といたしますので、会員皆様のご協力をお願いいたします。

■ 6月10日以降に会費を納入いただいているにもかかわらず、会計処理作業の都合で、納入状況にデータが反映されていない方がいらっしゃいます。どうかご容赦ください。また、納入済みで「請求金額」が「0円」の方にも、振り替え用紙を同封しておりますこと、ご了承ください。

■ 学会規約にしたがい、学会費未納3年以上の方は、「会員資格を失う」という措置をとらせていただいております（退会扱い）。また、学会誌の発送は、前年度未納の場合、その翌年度より停止いたします。

学会の運営は会費によって支えられています。皆様のご協力をお願いいたします。

<口座番号>

郵便振替口座番号 01370-4-70223

加入者名 全国大学国語教育学会

◆新入会員のお知らせ

東京大会常任理事会で承認された新入会員の方々をご紹介します。

*個人情報保護のためPDF版では削除してあります。

◆第2次課題研究『国語科教師の実践的力量をどう育むか』の原稿募集と執筆要領

全国大学国語教育学会・研究部門

全国大学国語教育学会の「研究部門」では、第2次の課題研究として、「国語科教師の実践的力量をどう育むか」というテーマを設定しました。秋田大会・愛媛大会・東京大会での課題研究における研究発表や意見交換を通して、国語科教師の力量形成には、さまざまな要素があり、多方面からの考察・検討が必要であることがわかりました。国語教育界のみならず、日本の教員養成の在り方、教育現場の抱える問題、多様な研修組織や研修制度など、多方面にわたって関連する重要な問題を提起していることも明らかになってきました。

そこで、この問題に関する研究の基礎資料を提供するとともに、今後の研究の蓄積・発展を図るための土台として、社会的にも関心の高い「教師の力量形成」について、「国語科教師の実践的力量をどう育むか」というテーマで本を出版することを計画いたしました。本書

の構成は、第1次の課題研究の成果をまとめた『国語学力調査の意義と問題』にならって、次のように計画しています。

第1部～第3部は、課題研究における発表者・司会者等、登壇者に執筆をお願いします。

第4部は、学会員の皆様からご投稿いただいた論考で構成します。

はじめに

序章

第1章 ライフストーリーの視点から

甲斐利恵子・荻原伸・細川太輔・藤原顕・山元隆春

第2章 協働性・共同性・同僚性の視点から

寺岡英男・難波博孝・松田哲治・松崎正治

第3章 大学における教師教育の視点から

吉川芳則・児玉忠・高橋邦伯・岩田康之・望月善次

第4章 国語科教師の実践的力量形成について考える（仮題）

投稿論文（4編）

付録 基本文献の紹介 年表

おわりに

索引

（総頁数、180 頁程度）

これまでの3回の研究協議をふまえた論考や新たな視点からの論考を奮ってご投稿いただければ幸いです。なお、頁数の関係で4編程度の掲載を予定しておりますので、ご投稿いただいた論文の採択の有無は研究部門で決定させていただきます。予めご了承ください。

また、原稿料・印税につきましては、第1冊目と同様学会事務局の判断にご一任ください。

【 投 稿 要 領 】

- 1 原稿は横書きで、10ページ（1ページ＝34字×27行）以内とします（題目を付すこと）。プリントアウトした原稿3部と元データ原稿（メディア媒体または添付ファイル）を下記の宛先までご提出下さい。（「投稿原稿在中」と明記してください。）

〒990-8560 山形県山形市小白川1-4-12

山形大学地域教育文化学部 小川雅子

TEL & FAX 023-628-4388 masako@e.yamagata-u.ac.jp

- 2 原稿の締切は、2010年9月30日（必着厳守）とします（2011年1月末刊行予定）。
- 3 見出し番号は、1、2、3…、その下位は(1)(2)(3)…、さらに下位は①②③…のようにして下さい。
- 4 本文中の年号は、「2007（平成19）年」のように、西暦（和暦）をお書き下さい。
- 5 引用文献（参考文献）の示し方は、著者名・書名（論文名）・出版年・出版社・ページ数（必要があれば）の順でお願いします。
- 6 書名は『 』、論文名は「 」で表記して下さい。
- 7 文体は「である」調として、なるべく平易な文体でお書き下さい。
- 8 本文の最後に、お名前とともに奥付等に用いる勤務先・役職を明記して下さい。
- 9 連絡先として、住所・電話番号・メールアドレスをお知らせください。